

平成 23 年 5 月 24 日  
(社)日本物流団体連合会

## 第 12 回物流環境大賞 受賞者決定 大賞は、センコー株式会社

「センコーEcoイノベーション 2012  
～省電力活動を中心とした環境への取り組み～」に決定

当連合会は、平成 23 年 5 月 23 日、物流環境大賞選考委員会（委員長：宮原耕治（社）日本物流団体連合会会長）を開催し、第 12 回「物流環境大賞」の受賞者を別紙の通り、決定致しました。

物流部門においても、環境に対する取り組みは年々広がりを見せ、各企業・団体の意識も高まっており、今回も多数の応募が届き、決定に至るまで大変時間を要しました。

今回については、物流環境大賞 1 件をはじめ、合計 7 件について表彰することと致しました。

なお、表彰式は平成 23 年 6 月 30 日(木)、海運クラブにて開催される第 20 回通常総会の席上において行われます。

### 【添付資料】

- 別紙 1：第 12 回表彰受賞者の概要
- 別紙 2：物流環境大賞について
- 別紙 3：第 12 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

担当：(社)日本物流団体連合会  
事務局 藤嶋(フジマ)  
TEL：03-3593-0139

## 第 12 回表彰受賞者の概要

### 1. 物流環境大賞 (1 件)

被表彰者：センコー株式会社

功績事項：「センコー Eco イノベーション 2012」

～ 省電力活動を中心とした環境への取り組み～

改正省エネ法が施行され、事業所におけるエネルギー使用量の単位当たり年平均 1% 削減が義務付けられたが、事業所におけるエネルギー使用量は約 71 万 GJ(21 年度)で、その内 8 割強が電力だった。中期計画にて「センコー Eco イノベーション 2012」を制定、電力使用量削減の取り組みとして、31 項目の省電力項目を設定。人的取り組みから電力デマンドをはじめとした設備導入まで各種施策を盛り込み、積極的な省電力の取り組み・施策を展開させ、効果算定・テスト導入による調査・検討を行い本格実施。ある拠点では、導入前後で比較し、1 年間で約 20 万 kWh、16.5% の削減効果、照度見直しも行き、約 350 基の照明を削減、年間約 40tCO<sub>2</sub> 排出量を削減した。全社取り組みだけでなく、他社へのお手本として今後も期待できる取り組み。

### 2. 物流環境保全活動賞 (1 件)

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：電力使用の「見える化」と「運用改善」による省電力の取り組み

～ “日本一” のエコ拠点を目指して～

2008 年 4 月から約 3 年間、品川トランクルーム拠点全体で省電力の取り組みを継続。電力の使用状況の見える化をはじめ、庫内温湿度を維持しつつ、換気を上手く使うなどの工夫を独自で凝らした。また、デマンド値を低く抑え、契約電力を落とし、電気料金引き下げも行った。その結果、年間電力使用量 44% 削減を達成。CO<sub>2</sub> を 464 トン削減、電力料金も年間 1,603 万円削減し、エコロジーとエコノミーを実現させた。

### 3. 物流環境啓蒙賞 (1 件)

被表彰者：財団法人運輸低公害車普及機構

功績事項：カーボン・オフセット付 CNG車リース事業

貨物自動車のうち、CNG車はわずか0.77%しか普及していない。LEVOでは、気候変動対策認証センターのカーボン・オフセット認証を取得。22年度400台リース、オフセットCO<sub>2</sub>量は1,700トン(年間排出量の50%)となった。更に、CNG車リース事業のCO<sub>2</sub>削減効果を広めるため、その費用を負担。また、カーボン・オフセット付CNG車であることを表すため、希望者に対し、車体貼付用ステッカーや証明書の発行を実施しており、内外へのアピールを広く行った。

### 4. 物流環境負荷軽減技術開発賞 (2 件)

被表彰者：日本電気株式会社 / ヤマト運輸株式会社 【共同申請】

功績事項：安全・エコナビゲーション「See-T Navi」の開発・導入

今までアナログで指導・管理していたドライバーの運転操作を「データ化＝見える化」。データをもとに効果的かつ具体的な個人指導を実施。See-T Navi(運行管理システム)では、デジタルコに加え、タッチパネル部・ドライブレコーダー・GPSを融合、社内基幹システムと連携。セーフティでエコな運転を実現可能にした。燃費8%向上と結果も出ており、全集配車32,000台への配備を予定し、今後は「次世代NEKOシステム」との連携も視野に入れ、改良を続けている。

被表彰者：日本貨物鉄道株式会社

功績事項：HD300形式ハイブリッド機関車の開発

トラックをはじめとする各輸送機関において、環境負荷低減に向けた多くの技術開発が行われている。鉄道貨物においても、ディーゼル機関車の置き換えにあたり、より環境負荷の少ない低公害小型エンジンと大容量蓄電池を搭載したハイブリッド機関車を開発。ディーゼル機関車と比較して、NO<sub>x</sub>を62%低減、燃料消費量も36%低減させ、更に騒音レベルも22dB(A)低減させ、開発当初の目標を上回るレベルの環境負荷低減を達成。

## 5. 物流環境特別賞（2件）

被表彰者：パナホーム株式会社

功績事項：「部材供給」と「廃棄物回収」の往復輸送によるCO<sub>2</sub>削減  
および資源循環の取り組み

部材供給の輸送や廃棄物の収集運搬で、積み替え作業や現場個々でトラックを活用していた課題を見直し、部材供給と廃棄物輸送を統合、効率化を行い、CO<sub>2</sub>の削減と合理化を図った。また、現場で出る余剰部材を有効活用し、リサイクル率も向上させる取り組みを行った。これらの取り組みにより、配送回数を減らし、管理工数も削減。結果として30%のCO<sub>2</sub>削減、資源循環ゼロエミッション達成、コスト合理化率28%という数字を上げた。

被表彰者：エプソン販売株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社

日本通運株式会社 【共同申請】

功績事項：エプソン販売社とキヤノンマーケティングジャパン社の商品の共同輸送

エプソン販売社とキヤノンマーケティングジャパン社は、環境経営を推進する一環で、物流での更なる対策を考え、日本通運は両社から請け負っている共通配送先の使用車両数を減らす提案を受けた。各地より配送される家電量販店への配送について、配車機能を集中させ積み合わせすることとした。インクカートリッジなどの収納箱も共通にするなどの工夫もし、CO<sub>2</sub>削減量は426.4トン、削減率も平均25.1%と効果を出した。

## 物流環境大賞について

物流環境大賞は、社団法人日本物流団体連合会が平成12年度より制定致したものであります。

その趣旨は、近年、物流分野においても環境問題への対応が益々重要となっている現状に鑑みまして、物流部門において環境保全活動や環境啓蒙活動等の面で優れた功績を残された団体、企業又は個人を表彰する制度を設け、もって環境施策の一層の推進を図ることと致したいというものであります。

毎年、物流環境大賞選考委員会（委員長 宮原耕治（社）日本物流団体連合会会長）で、被表彰者を選考の上、通常総会において表彰することと致しております。

## 第 12 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

### (選考委員会)

委員長	宮原 耕治	(社)日本物流団体連合会会長
副委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	田中 照久	国土交通省政策統括官付参事官(物流政策)
	与田 俊和	交通エコロジー・モビリティ財団理事長
	谷利 亨	(財)運輸低公害車普及機構調査役
	西村 國紀	日本物流記者クラブ 代表幹事
	田村 修二	(社)日本物流団体連合会 物流環境対策委員会委員長
	渡邊 健二	(社)日本物流団体連合会 人材育成・広報委員会委員長
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長

### (予備選考委員会)

委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	谷利 亨	(財)運輸低公害車普及機構調査役
	西村 國紀	日本物流記者クラブ 代表幹事
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長